

6 学年の実践記録

(1) 主題に迫るための具体的な手立て

〔手立て1〕

・今までに学習してきた生活科や総合的な学習の時間の振り返りを行い、自分たちの生活の場である「大蔵のまちの昔」について知っていることを話し合う場を設ける。その後、GTに話をしてもらい、現在との違いを知ることで「大蔵のまちの昔について調べてみたい」という思いを喚起させ、学習課題の設定を行う。

・単元構成を2つに分けることで、内容の精選や時数の削減を行うため、見通しを持った学習計画を立てる。

〔手立て2〕

・GTから話してもらったことを伝える場面では、小グループによる中間報告会の場を設ける。また、中間報告会の活動を受けて、過去の様子や当時の人々の思いや願いがよく伝わる内容であるかという視点を持たせて、表現内容や表現方法についての感想や改善点を出し合う場を設定する。そうすることで、お互いで価値づけを行うことができる。

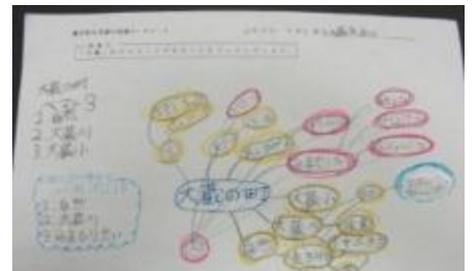
〔手立て3〕

・課題別グループごとに、調べたことをまとめたり発表したりする際には、国語科や社会科等との関連を図り、言語活動や表現方法を生かした活動を行う。

(2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

これまでに生活科や総合的な学習の時間で学習したことを振り返り、自分たちが住んでいる大蔵のまちのよさについて話し合う場を設け、大蔵の町についてのウエビングを行った。そうすることで、小学校6年生の自分たちの大蔵のまちに対する思いを再確認した。(資料①) この活動により、これまでの生活科や総合的な学習の時間で習得してきた知識や、大蔵のまちに対する思いを友達同士で共有することができ、大蔵のまちにはたくさんの素晴らしいものがあり、また「そんな素晴らしいものが昔から続いていたのか」という学習課題へとつなぐことができた。また、単元構成を見直すため、年間の見通しをもった計画を立て、導入を2学期初めに学校行事で行われる「大蔵川クリーン作戦」に設定した。「クリーン作戦は、大蔵の伝統行事だ。」という児童の意見にもあるように、児童にとって馴染みが深く、本単元でねらいとしている「大蔵の歴史」というキーワードに、より近いものであり、「大蔵川クリーン作戦は、昔から行われていたのだろうか。」という疑問を持つことができた。



資料① 大蔵のまちのウエビング資料

また、大蔵のまちづくり協議会の方をGTとして招き、幼少期の大蔵のまちの様子(50～60年ほど前)について話をしてもらった場を設けた。そこで児童は「大蔵のまちには、こんなものがあつたんだ。」や「今は無くなっているものもあるんだ。」「今よりもっとにぎわっていたのではないかな。」などの意見が出てきた。これをもとに、「大蔵川クリーン作戦と同じように、他にも大蔵のまちで昔から続くものを調べていきたい。」という思いを抱くことができ、「大蔵のまちの昔について調べていこう。」という学習課題を設定した。



資料② GTから話を聞く場面(1回目)

〔手立て2〕

大蔵のまちの過去の様子を調べる際には、「自然（大蔵川）、伝統（神社や祭り）、学校（大蔵小学校）、人の様子（人口や取組）、にぎわい（主にまち全体の様子）、交通」の6つの課題別に分かれ、それぞれインターネットを使った一人調べと、それをもとにグループ内で交流し合い、整理してまとめた。しかし、それだけでは調べられなかったり、さらに残ったりした疑問は、昔から大蔵のまちに住んでいる方々に再度 GT として来ていただき、児童が整理した課題別に分かれて、当時の大蔵のまちの様子や、当時まちに住んでいた人々の思いについて話していただく場を設定した。課題別に分かれて話をさせていただくことで、自分たちの知りたい情報をより多く得ることができ、より具体的に大蔵のまちの様子について考えていくことにつながった。より分かったこと、思ったこと等は、課題別グループ内で交流し合い、まとめることで、意識の共有や意見の交流を図ることができた。



資料③
課題別グループに分かれて GT からの話を聞く場面

その後、課題別グループで調べたり話を聞いたりしたことを「壁新聞」の形式でまとめた。新聞にまとめることで、集約した際には、大蔵のまちの過去の様子だけでなく、当時住んでいた人がどのようなことを思っていたのか、またそのことが現在の大蔵のまちの良さにどのようにつながっているのかと関連付けてまとめることができるように、各グループに応じた指導や支援を行った。

また、中間報告会で調べたことを発表し合う場面では、発表を聞く側の視点に重点を置いた。発表を聞く際に、「文字が大きかった」や「色遣いが良かった」等の評価に偏ることが懸念されるため、事前に「聞くときのポイント」として、記事の内容が「大蔵のまちの歴史を伝えるものとして適切かどうか」「当時の人々の思いや願い等が書かれているか」という2点を設けて、中間報告会を行った。その際に、聞く側のグループに付箋を渡しておき、「よりよい新聞に仕上げるためのアドバイスを書く」として、感じたことやアドバイスしたいことを書かせた。それを自分たちで集約することで、記事の内容をよりよいものにしていこうという意欲づけにつながった。



資料④
課題別グループに分かれて資料の精選をする場面

〔手立て3〕

課題別グループで調べたり話を聞いたりしたことを「壁新聞」の形式でまとめる際には、社会科の学習で取り組んできた「歴史新聞作り」と関連させて取り組ませた。この活動では、中単元ごとに学習した内容から、自分若しくは近接の友達と記事にしたい内容（ここでは、「学習を通して心に残った内容」や「自分でまとめてみたい内容」として児童に指導を行った。）を精選し、自ら新聞にまとめることで、より深く内容を理解することにつながると考える。（資料⑤）また、「新聞にまとめる」という学習は、

4年生や5年生の国語科の学習の中であつかわれるものである。4年生「新聞を作ろう」の学習では、新聞の記事がどのような目的で載せられているのかを調べることで、新聞の特徴を知ることができた。

また、5年生「新聞を読もう」の学習では、「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む活動を通して、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながら読んだりできるようにすることがねらいである。」とあり、4年生で学習しなかった「見出し」や「リード文」などの知識を得ることで、より詳しく新聞作りについての学習を深めてきた。これら国語科や社会科での活動を生かし、本単元での「大蔵のまちの歴史を新聞形式で



資料⑤
社会科で行っている「歴史新聞」づくりの一例

まとめよう」という意欲づけに役立てることができた。

また、調べたことを整理・分析する場面において、「思考ツール」を活用しながら学習を進めた。整理・分析場面は、調べたことをもとにまとめる上での重要なものである。しかし、場合によってはこの場面で上手く話し合いが行われないことで、整理・分析ができないだけでなく、児童の意欲が薄れてしまう可能性が考えられる。そこを補充する手段として、思考ツールの活用によって、「可視化することで考えや情報が明らかになる」「操作して考えることで考えが深まる」「話し合いが活性化する」などの効果が期待される。本単元を行う以前に、道徳の学習において思考ツールを活用した学習を行い、その学習で

用いた「ランキング形式」を本単元に生かして、活動を展開した。中間報告会で各グループからもらったアドバイスを整理・分析する際に、内容を改善するための重要度を順位づけることで、アドバイスの内容とグループとしての考えを比較しながら考えることができた。



資料⑤
思考ツールを活用して話し合いをする場面



(3) 成果と課題

〔成果〕

○これまでに学習してきた生活科や総合的な学習の時間の集大成として位置付けることで、身近に感じてきた大蔵のまちがどのようにして成り立ってきたのか、またどのような人々が関わってきたのかについて関心をもって調べることができた。

○社会科での「歴史新聞作り」や国語科との関連を生かして、調べたことをまとめる際に「壁新聞」にまとめることで、どのようにまとめればよりよい記事になるのか、書き方や表現方法を変えることで読み手への伝わり方が違う等を知ることができ、壁新聞にまとめることができた。学習後のアンケートの結果でも、88%の児童が教科で学習したことが総合的な学習の時間の中で生かされたと回答している。また同アンケートの中で、調べた情報を集めたり整理したりすることができたと回答した児童は96%と、大多数の児童が教科との関連によって学習することのよさを感じ取ることができたといえる。

社会科での歴史新聞づくりが役に立って、壁新聞にまとめることができた。

友達と意見を交流したり、アドバイスをもらったりすることで、自分の考えが広がった。

大蔵のまちに鉄道が走っていたことは初めて知った。すごいまちだったんだと感じた。

自分たちが住んでいるまちは、たくさんの人たちが関わりあって成り立っている。

〔課題〕

- 「大蔵のまちの歴史」に焦点をあてて、調べ学習を進めていくため、GT以外にも、商店街の方や見守り隊の方、その他地域に住んでいる方などとの関わる機会を持つことの重要性を感じた。
- 教科との関連を深めていくことで、児童がさらに意欲をもって学習に取り組んでいけると感じる。そのためには、先を見通した学習計画を立てる必要がある。
- 「情報の収集」「整理・分析」「まとめ」のそれぞれの場面において、国語科の「話す・聞く」や調べたことを「まとめる」力など、各教科での力をしっかりと付けることが大変重要であると感じた。